

あのとき、〇〇していれば…



いつもと違うところ を医師に伝えましょう

たとえば、このようなことに心当たりはありますか？

感染症の正しい診断に役立つ情報

- ^{たん}痰のからむ咳が2週間以上続いている
- ^{せき}微熱・身体のだるさが2週間以上続いている



ひとつでもチェックが入った“その時”は、**結核** の可能性があります。

その時、医師は…

まず喀痰の結核菌検査を
行いましょう。

※結核と診断した場合は保健所への届出が必要です。

その時、あなたは…

医師に
「結核の検査は必要ありませんか？」
と確認しましょう。

～その長引く症状、結核かも～

厚生労働省 結核

検索

詳細はこちら▶



❁ 忘れた頃にやってくる、結核

～今でも国内で年間15,000人以上が発症しています～

- 結核は、今でも年間15,000人以上の新しい患者が発生し、約2,000人が命を落としている日本の主要な感染症です。
- 結核を発症しても、早期に発見できれば、本人の重症化が防げるだけでなく、大切な家族や友人等への感染の拡大を防ぐことができます。
- 早期発見のためには、早めに医療機関を受診すること、患者は正しい診断に役立つ情報を医師に伝えることが必要です。そして医師は、必要な情報を患者から聞くことが重要です。しかし、患者と医師の間でそういった情報のやりとりが無いと、診断の遅れや誤った診断につながりやすくなります。



❁ 結核の感染

～結核が進行すると周りの人に感染を拡大させてしまいます～

- 結核の症状(長引く咳・たん、微熱、体のだるさなど)には特徴的なものがなく、早期には目立たないことが多いため、とくに高齢者では気づかないうちに進行してしまうことがあります。
- 結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散るようになります。その結核菌を吸いこむことにより周りの人に感染が拡がります(空気感染)。
- 結核と診断されても、治療を始めれば1～2ヵ月で周りの人に感染させることはなくなり、6ヶ月～9ヶ月の治療期間、医師の指示どおり毎日きちんと薬を飲めば治ります。



❁ だからこそ早期発見・早期治療!

～いつもと違うところを医師に伝えましょう～

- 咳やたん、微熱、倦怠感(体のだるさ)などが2週間以上続く場合は、結核の可能性があります。いつもの「風邪」と決めつけてしまわずに、早めに医療機関を受診して、いつもと違うところを医師に伝えましょう。
- 医師は、そうした患者の情報を聞き取り、結核の可能性がある場合は、たんの検査をしましょう。

